

【科目情報】

授業コード	1FCB619010	科目ナンバリング	FCALAW84019-J2
授業科目名	知的財産法演習		
担当教員氏名	松村 信夫		
開講年度・学期	2022年度後期	曜日・時限	火曜2限
授業形態	演習		
単位数	2単位		

【シラバス情報】

授業概要	<p>すでに、知的財産法A・Bにおいて習得した基本的知識および応用能力をさらに高め、将来、知財訴訟や知財法務に関与し、あるいは司法試験で知的財産法を受験科目として選択した際にも、対応できるレベルの能力を習得させることを目的とする。（もちろん知的財産法A・Bの授業を未修でも意欲がある受講生の参加は可能である。）</p> <p>知的財産法は、訴訟だけでなく、各種の契約実務や予防法務においても極めて重要な役割を果たしている。</p> <p>そのいずれにおいても、知的財産権全般にわたる幅広い視野やこれを自在に応用できる能力とともに、自己の主張や判断を的確に相手方に伝達するための説得力（特に文章作成能力）が必要である。</p> <p>そこで、この演習では、いろいろな機会に文書での報告等を求める。</p>
到達目標	<p>すでに「授業概要」に記載したように、知的財産法全般にわたる幅広い視野とともに特許法、著作権法の分野では、高い応用能力を習得させることを目的とする。</p>

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	演習の進め方に関するガイダンスと協議	
第2回	最近の重要判例（特許法）の評釈・研究	発表者を決めあらかじめ選択した判例の論点・判旨および位置づけを発表してもらい全員で研究討議する。
第3回	同上	同上
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	事例（問題研究）特許法Ⅰ	講師があらかじめ選択若しくは作成した重要論点を含む事例（問題）につき受講生全員に事前にレポート（答案）を作成提出させ、当日、これにもとづく発表を求め討議し講評する。
第7回	事例（問題研究）特許法Ⅱ	同上
第8回	事例（問題研究）特許法Ⅲ	同上
第9回	最近の重要判例（著作権法・その他）の評釈・研究	発表者を決めあらかじめ選択した判例の論点・判旨および位置づけを発表してもらい全員で検討する
第10回	同上	同上

第11回	事例（問題研究）著作権法Ⅰ	講師があらかじめ選択もしくは作成した重要論点を含む事例（問題）につき受講生全員に対して事前にレポート（答案）を作成提出させ、当日これにもとづき発表を求め討論し講評する
第12回	事例（問題研究）著作権法Ⅱ	同上
第13回	事例（問題研究）著作権法Ⅲ	同上
第14回	誌上模擬裁判	訴訟モデル記録若しくは関連書籍にもとづき実際の訴訟事案をもとに攻撃防御方法としての主張や立証の方法を検討する。
第15回	総復習（Q&Aタイム）	各受講生の質問を受け回答をおこなう
第16回	期末試験	

成績評価方法	絶対評価 演習時間内の発表・討論および文書報告（答案）の内容を総合した日常評価を80パーセント 期末試験を20パーセントとして成績評価を行う。
履修上の注意	電子掲示板を通じて次回の詳細な内容を伝達する。
教科書	なし
参考文献	演習時間内に適宜指示する。
その他	